

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年12月1日(2011.12.1)

【公表番号】特表2011-500920(P2011-500920A)

【公表日】平成23年1月6日(2011.1.6)

【年通号数】公開・登録公報2011-001

【出願番号】特願2010-530066(P2010-530066)

【国際特許分類】

C 0 9 J 133/04 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

【F I】

C 0 9 J 133/04

C 0 9 J 11/06

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月14日(2011.10.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

a) 5~95重量部の、ペンダントビフェニル基を有するモノマーコーネクト、

b) 95~5重量部のアルキル(メタ)アクリレートモノマーコーネクト、

c) 0~15重量部の酸官能性モノマーコーネクト、

d) 0~15重量部の極性モノマー、及び

e) 0~5重量部のその他のモノマー、

を有するコポリマーであって、

前記モノマーの合計が100重量部である、コポリマーと、

所望により、可塑剤と、を含む、接着剤。

【請求項2】

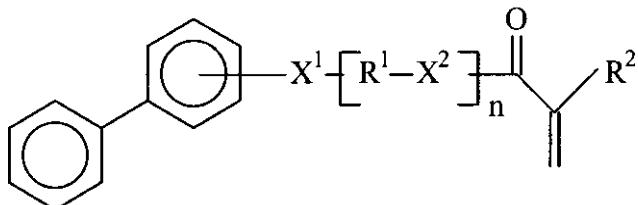
前記酸官能性モノマーコーネクトの量が1~15重量部である、請求項1に記載の接着剤

。

【請求項3】

ペンダントビフェニル基を有する重合モノマーコーネクトが、式:

【化1】



のものであり、

式中、

X¹及びX²はそれぞれ独立して、-O-、-S-、又は-NR³-であり、R³はH

又は C₁ ~ C₄ アルキルであり、

R¹ は、1 以上のカテナリーエーテル酸素原子又はペンダントヒドロキシ基を任意に含有する 1 ~ 8 炭素のアルキレンであり、

n は 0 ~ 3 であり、

R² は H 又は C H₃ のいずれかである、請求項 1 に記載の接着剤。

【請求項 4】

n が 1 である、請求項 3 に記載の接着剤。

【請求項 5】

屈折率が少なくとも 1 . 5 0 である、請求項 1 に記載の接着剤。

【請求項 6】

芳香族モノマーと共に重合可能な少なくとも 1 つの非酸含有極性モノマーを更に含む、請求項 1 に記載の接着剤。

【請求項 7】

前記酸官能性モノマーユニットが、アクリル酸、メタクリル酸、及びイタコン酸から選択される、請求項 2 に記載の接着剤。

【請求項 8】

架橋剤を更に含む、請求項 1 に記載の接着剤。

【請求項 9】

可塑剤を更に含み、前記可塑剤が少なくとも 1 . 5 の屈折率を有する、請求項 1 に記載の接着剤。

【請求項 10】

少なくとも 8 5 % の光学透過率値を有する、請求項 1 に記載の接着剤。